

B-53 合繊の洗淨による損傷劣化について (Ⅷ)

高知大教育 西村久子 ○吉川せつ

目的 合繊を中心に洗淨過程における損傷劣化を報告しているが、昨年は電気洗たく機の洗淨プログラムを組みかえ、洗淨方式のちがいによる損傷を検討した。今回は織物の損傷に関係するとみられる洗たく時の浴比の問題と、オーバーフロー方式によるすすぎ時間の長短の効果も繊維、洗剤、くり返し回数別に調べ、主として風合的因子とみられる物理的性能の変化と官能テストより損傷状態を比較したので報告する。

方法 試料はジアセテート、ナイロン6に絹を加えて対照とした。洗いは二槽式電気洗たく機の反転弱流方式、洗剤濃度はそれぞれの指示量とし水温(室温)で行い、脱水後室内で自然乾燥させ、くり返し30回の洗淨を行った後、収縮性、剛軟性、ドレープ性、防しや性、表面反射率の測定によって、また官能テストによってもその変化をみた。浴比の影響については洗たく時の浴比に20、1:46の2水準とし、洗剤は高級アルコール系を用いた。すすぎ時間の影響もオーバーフロー方式すすぎ3分、10分の2水準を設定し、洗剤は粉末石けん、非イオン系、陰イオン系の三種類を用いた。

結果 浴比の影響をみる実験において繊維別、回数別に各測定値に有意の差が出たが浴比には防しや性のみに有意差がみられた。官能テストにも有意差が認められた。すすぎ時間の影響をみる実験でも全体として繊維別、回数別には有意差は認められたが、洗剤別、すすぎ時間別には差は認められず、官能テストにはすすぎ時間別に差が認められた。